繪にかける、げに興ばかりのかり屋のうちに、文臺居て算おける人をかきけり、今街に出たる賣トの古きさまなり、人倫訓蒙圖彙に、俗語に、手占見通しなどゝて信仰するなり、伊勢近江讃岐などに此ながれ有て、諸國に出る中にも、かるゆきなるは、道のかたはら、門のすみにうづくまりゐて、下輩の男女を相するなり、判の占、五音調子の占、品々あるとかや、其繪のさまは、樹の下に席しきて、法師の黑衣に輪袈裟をかけ、數珠と扇持て居、旁にとふ人どもをかきたり、筮を用ひざりしと見えて、其かたをかゝず、貞享元祿ごろ此さまにて、後は有髮も出來しが、修驗者の體なり、貞享十五年榮花咄に、山伏姿と成て、月待日待御一代の吉事御判はんじけるなど見えたり、されど大かた法師の姿なりしは、寶曆ごろ迄も其定なり、俗形の賣卜者はいと近と見えたり、西土にはこれを課命とも起課ともいへり、

〔日本書紀十九欽明〕十四年六月、遣内臣闕名使於百濟、〇中略別勅醫博士、易博士、曆博士等、宜依番上下、令上件色人、正當相代年月、宜付還使相代、又卜書曆本種々藥物可付送、

〔江談抄六〕長句事

寬平法皇受周易於愛成事

被命云、周易被見哉如何、答云、少々所一見也、周易上古人、以誰說被用哉、被命云、善淵愛成能讀之云々、永貞弟也、寬平法皇者、受讀周易於愛成、給云々、竟宴之日叙位云々、

〔神皇正統記五後宇多〕寬平は、ことにひろくまなばせたまひければにや、周易のふかき道をも、愛成といふ博士にうけさせたまひき、

〔百練抄十一土御門〕承元四年二月廿三日、長兼記云、季長易塵相傳系圖、善相公授舍弟日藏僧都、日藏授仁海僧正、僧正授茂範僧都、僧都授仁寬阿闍梨、阿闍梨授心也、號辨君心也授少納言入道信西、信西授季親、季親授季長也、又一流、善相公、淨藏、橘安、〇橘安、二中歷作攝安、忠允、彥殆、〇彥殆、二中歷作彥祚、文替〇文替、二中歷作文贊、尋

傳來教習